

委員会審議

事業者の対応

1. 微気候環境の変化

- ・ 輪中堤建設前後の境内の微気象（強い風、弱い風）変化を把握するため、再現性の高いシミュレーションから建物への影響を検討



- ・ 輪中堤の建設によって、境内の西側の風が従前より強くなることから防風植栽を行うことで、影響を緩和する。
- ・ 環境変化をモニタリングで把握する。

2. 地盤改良の地下水・植物への影響

- ・ 境内の地下水分布をボーリング調査や揚水試験等で把握
- ・ 地盤改良の地下水水質の影響を現地実験により確認



- ・ 地盤改良の地下水水質への影響はほとんどないことが明らかになった。
- ・ 水質及び水位、土壌水分についてモニタリングを継続する。

3. 社叢林への影響

- ・ 工事の影響を受ける重要な樹木への対応



- ・ 移設可能な樹木については、北側本堤の側帯に移植を行う。

4. 輪中堤、連絡橋等の景観

- ・ 景観に係る合意形成プロセスの妥当性を検討（地域住民、小松市民、沿川地域の方々の意見を広く聴取方法等）



- ・ 輪中堤、連絡橋、管理橋の色彩については、施設管理者に対し、アンケート結果を尊重するよう積極的に取り組む。

5. 施設計画

- ・ 天満宮への利用や祭事から好ましい動線を検討
- ・ 輪中堤内の雨水排水計画（1/10降雨確率）



- ・ 防災、防火の観点から、輪中堤に架ける橋は2ヶ所とする。
- ・ 輪中堤内の排水計画は小松市の計画（1/10降雨確率）と整合したポンプ排水計画で妥当。